

1998年10月31日

ディケンズ・フェロウシップ ニュースレター

天候不順が当たり前のような昨今ですが、みなさまお元気ですか。さる10月3日(土)に東京女子大学で開かれた秋季総会のご報告と、今後の予定についてお知らせいたします。

総会(2:00~2:30)

- 1 小池滋支部長より開会の挨拶があった。
- 2 支部長交替の件

小池支部長より、支部長交替の件が提案された。現支部長は2000年3月末日をもって定年退職するため、本務校に事務局を置くことが事実上不可能になるため、支部長を交替する必要があるという説明があり、つづいて次期支部長として現理事である西條隆雄氏を推薦された。会場からただちに賛成の声が上がり、出席者一同の拍手をもって西條隆雄氏が次期支部長に決定した。

この件はディケンズ・フェロウシップ本部に届け出て正式に認可されるが、新支部長は1999年1月からその任に当たる。事務局は以下に変わる。

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1
甲南大学文学部英語英米文学科内
電話:078-431-4341

なお、振替番号は変更なし。

また、松村昌家副支部長より、現支部長の退任と同時に退任したいむね申出があり、了承された。

- 3 1998年度会計報告

別紙の通り会計報告があり、了承された。

なお *Dickensian* 購読代の振り込み先銀行の支店が変更になった。

- 4 松岡光治氏よりフェロウシップのホームページ開設の提案があり、メーリングリストは当分の間、会員のみを対象とすることにして、了承された。
- 5 その他

i 次期支部長に推挙された西條氏より、ひとこと挨拶があった。

ii 午前十一時より総会に先だって企画された「サンダース教授を囲むフリートーク」の会には十余名の会員の参加があり、「シェイクスピアの次はディケンズである」にはじまって、サッカレー、H・ジェイムズ、トロロップ、ギヤスケル夫人のほか、チェホフ、トルストイらの名も上がり、『フランケンシュタイン』よりは『ドラキュラ』のほうがゴシックとしての格は上だろうなど、サンダース教授と参加者との談話は要約不能なほど多方面にわたり、それぞれが耳よりな情報を得ることができた一刻だった。

研究発表(2:30~3:20)

荻野昌利氏(南山大学)の司会で、小寺里砂氏(京都女子大学)が「エイミー・ドリット再考—ドストエフスキーのソーニャとの比較において—」と題して、意欲的な研究成果を発表した。発表後、作品比較の意義などについて質疑があった。

講演(3:30~5:00)

司会の佐々木徹氏(京都大学)による講師の紹介があり、以下の講演があった。

題: Dickens and Class

講師: Prof Andrew Sanders (University of Durham)

階級と労働と賃金の関係、または貧困と富の関係などの観点からディケンズの作品を解説した熱意あふれる講演だった。質疑応答の後、関連作品から抜粋して朗読があった。

総会終了後、吉祥寺の「摩天楼」で恒例の懇親会がもたれました。約四十名がいくつかのテーブルに分

かれて着席しましたが、どのテーブルでも話が弾み、中華料理をいただきながら、ディケンスをめぐる近況報告で親睦を深めることができました。

来年度の春季大会と秋季総会の予告

- 1 1999年6月のフェロウシップ春季大会は、梅正行氏のご尽力により、名古屋の中京大学で開催いただくことになりました。
- 2 1999年10月の秋季総会は、神戸の甲南大学で開催される予定です。